資料２

令和５年度霧島山（硫黄山）火山防災訓練について

令和６年２月１９日
えびの市基地・防災対策課

１　目　的

　えびの高原硫黄山噴火（水蒸気爆発）を想定したえびの高原自主防災組織主体による火山防災訓練を実施して、関係機関との連携及びえびの高原各施設が実施する初動対応要領を演練する。

２　日　時

令和５年９月２７日(水)　０９：５０～１２：００

３　場　所

えびの高原周辺及び各施設

４ 訓練参加者(関係者含む３０名)

(1) えびの高原自主防災組織
(2) えびの市役所（基地・防災対策課、観光商工課）
(3) えびの警察署（警備課、避難誘導指導）
(4) 西諸広域行政事務組合消防本部（えびの消防署訓練支援・指導・助言）
(5) 鹿児島地方気象台（火山気象班への通報）

５ 主な訓練内容

(1) 防災行政無線放送及び関係機関への連絡・通報要領
(2) 登山者、観光客等への情報伝達（現地４か国語）及び避難誘導訓練
(3) 「ＡＥＤ」、「救急・救護」の機能別訓練
(4) 研究会（問題点・改善案、じ後の訓練予定など）

霧島山（硫黄山）火山防災訓練の概要

令和5年9月27日（水）

自主防災組織対策本部
（ピコラナイえびの高原ホテル）

１次避難誘導受け入れ（登山者等）

２次避難誘導の状況

２次避難誘導の受け入れ態勢（えびの高原ホテル）

霧島山（硫黄山）火山防災訓練の概要

令和5年9月27日（水）

AED取り扱い訓練

救急法訓練（心肺蘇生）

訓練研究会（今後の指針、日常の活動について討議）

【主要意見】

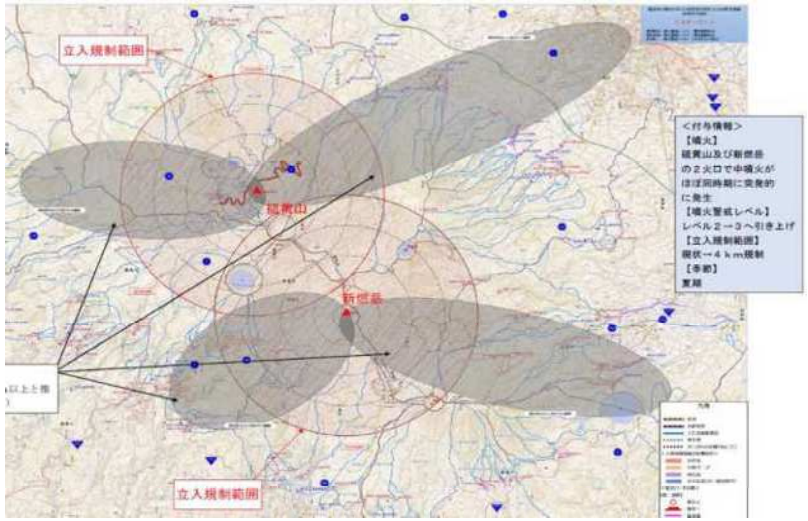
・観光客、登山客をいつ、どのように守るか

・公助を待たずに、今、できることを考え実効性や実際的な自助・共助の在り方を検討したい。

・公的な役割で、平時からできる取組を進めてもらいたい。

霧島山（硫黄山）火山防災訓練の概要

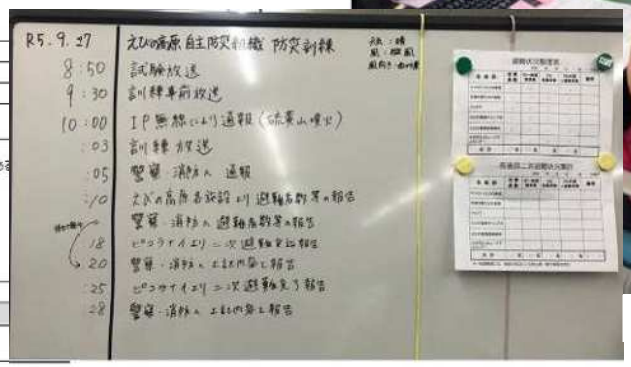
令和5年9月27日(水)



【市町村名　　】避難実施要領【火山名　　】

発出日時：20●●年●●月●●日　●●時●●分

1　概要	
20●●年●●月●●日●●時●●分、●●山の噴火警戒レベルが、「●」に引き上げられたことを受け、●●市として避難対象地域内の住民等に対して避難指示等を発令し、第●次避難対象エリア外への避難誘導を行う。 避難誘導に際しては、噴火に伴う火山現象の影響範囲内に立地する国道●●号線（●●～●●区間）を住民等が通行しないよう、防災無線、広報車、●●等を用いて呼びかける。 本要領に基づく活動の開始時、完了時には必ず、協力機関より所管課への実施報告を行う。 ・（機関名）＿＿＿＿は＿＿＿＿を開始、または完了した後、＿＿＿＿課へ報告 ・（機関名）＿＿＿＿は＿＿＿＿を開始、または完了した後、＿＿＿＿課へ報告	
2　火山現象の状況	
①時期	20●●年●●月●●日　●●時●●分（気象庁により、噴火警戒レベル「●」に引上げ）
②場所	火口の　特定前　・　特定後（火口の位置：●●●●）
③避難に際して警戒すべき火山現象 （噴火により想定される火山現象）	・避難に際して警戒すべき火山現象：●●●● ・噴火により想定される火山現象：●●●●、●●●●、●●●●、●●●●、●●●●
④火山現象の状況	
⑤時期による特性	
⑥気象の状況	□風向：　火口の風下側である　・　風下側ではない □降雨：　強い雨　・　弱い雨や霧雨　・　降雨なし
⑦予測される影響	□風向から予測される影響：　　＜参考情報＞ ・風下側での視界の低下（降灰）　：鉄道は微量の降灰でも運行停止する場合がある ・道路への少しの積灰による走行支障（降灰） ・道路への多くの積灰による走行不能（降灰）　：乾燥時、概ね10cm以上を目安に走行不能 □降雨から予測される影響： ・居住地域での土石流（降灰）　：弱い雨でも発生する可能性に注意 ・停電（降灰）　：降灰の碍子への付着 ・道路への積灰による走行支障または走行不能（降灰）　：湿潤時、概ね3cm以上を目安に走行不能
⑧防災上の留意事項等	
3　避難の対象者・誘導方針	
①避難誘導の方針	・降灰により通行支障を受ける避難経路に留意：国道●●号線、県道●●号線 ・避難対象地域内に、大規模事業所（就業者数●名規模）あり
	□避難対象地域：●●●●計画に定める、第●次避難対象エリア（別紙●参照）



えびの市役所基地・防災対策課（情報連絡本部訓練：情報収集・伝達訓練）

参考資料

報道関連参考資料

火山噴火備え 避難誘導訓練

えびの高原

えびの市のえびの高原自主防災組織（会長・大石勝幸ホテルピコラナイえびの高原総支配人）は、火山噴火を想定した避難誘導訓練を同高原で9月27日行った＝写真。

会員の6施設や市などから関係者30人が参加。霧島連山・硫黄山で小規模な水蒸気爆発が起こったとのシナリオで、防災行政無線による緊急放送や、避難者や負傷者数の取りまとめなど一連の流れを確認した。

このほか心肺蘇生法・自動体外式除細動器（AED）研修会も実施。大石会長は「各施設が連携しスピーディーに対応できるよう訓練を重ねたい」と話した。

■協力への締結
平時の研究協力を活用し
「事前防災の枠組み」を構築

掲載日：2023年12月30日，面名：地２，記事ID：KIJ20231230_010170001142060

宮崎日日新聞

硫黄山の火口映像提供

覚書署名

えびの市にＩＣＴセンター

えびの市と国立研究開発法人「情報通信研究機構レジリエントＩＣＴ研究センター」（仙台市）は25日、同センターがえびの高原の霧島連山・硫黄山に設置した高精細カメラで撮影した火口の映像を、市に提供する覚書を交わした。市は映像から火山活動の状況を把握し、噴火などに備えた事前防災の強化を図る。同センターと自治体による同様の覚書は初。

同センターは、自然災害の検知を目的とした観測システムの研究開発の一環で、大学と連携し、火口付近のカメラで硫黄山の観測を続けている。覚書により、火口の映像を市が常時確認できるようになる。市は噴煙や、河川白濁の原因にもなる泥水の状況などを把握し、防災対応に生かす。

覚書の署名式は、えびの高原の施設で実施。村岡隆明市長は「火山情報を気象庁以外から新たに提供していただくのは大変心強い」、同センターの井上真杉センター長は「火山防災の一助になれば。相互協力をお願いしたい」と述べた。（菅野健太）

硫黄山カメラ映像の利活用に向けた「研究協力に関する覚書」署名式

硫黄山のカメラ映像に関するえびの市との覚書に署名した井上真杉センター長（右）

南日本新聞　373news.com

えびの市は、国立研究開発法人情報通信研究機構（ＮＩＣＴ）が開発し、霧島連山えびの高原・硫黄山に設置した高精細観測カメラ映像の提供を受けることになった。両者は２５日、「カメラ映像利活用に向けた研究協力に関する覚書」に調印した。同市は、事前防災などに活用する方針。

ＮＩＣＴが硫黄山火口南側１５０メートルの尾根に設置したカメラは、太陽光発電と燃料電池を動力源に一定期間、自立稼働が可能。携帯電話回線で静止画を３０秒に一度、また１０分程度の映像を１時間に一度送信する。２０２２年１０月の設置から、問題なく稼働を確認できたことから、市に映像提供を呼びかけた。

市は、えびの高原を流れる赤子川白濁化の要因とみられる火口周辺堆積物の観測などに映像を活用する考え。観測への要望などをＮＩＣＴにフィードバックする。

村岡隆明市長は「定期的に火山情報を入手できることで、事前防災に対応しやすくなる」と期待した。ＮＩＣＴレジリエントＩＣＴ研究センターの井上真杉・センター長は「火山監視に限らず、社会インフラ全般の監視を低コストで可能にするのが開発の狙い」と述べた。

ＮＩＣＴが硫黄山尾根に設置した自立電源の高精細カメラ（ＮＩＣＴ提供）

宮崎日日新聞　（令和４年）

■地域防災■

「硫黄山爆発 逃げて」

えびの高原自主防災組織

連絡や誘導の流れ確認

えびの市のえびの高原自主防災組織（会長・大石勝幸ホテルピコラナイえびの高原総支配人）は5日、霧島連山・硫黄山の噴火を想定した避難誘導訓練を同高原で実施した。同組織会員の6施設や、同市、えびの署などから関係者約30人が参加し、連絡態勢や誘導の流れを確認した。

午前10時に硫黄山で小規模な水蒸気爆発が起こったとの想定で訓練を開始。防災無線などを使って、日本語のほか英語、韓国語、中国語で避難を呼びかける緊急放送を流した。

各施設の従業員は近くに観光客がいると仮定し、屋内への避難誘導を実施。その後、2次避難所のホテルピコラナイえびの高原に移動し、避難者数や負傷者数などを取りまとめて同市に報告した。大石会長は「えびの高原に安心して足を運んでもらえるよう今後も訓練を重ねたい」と話していた。（菅野健太）

硫黄山噴火を想定して行った避難誘導訓練

令和4年10月7日(金)
訓練について新聞報道

令和4年10月28日　金曜日　地域　18

ぐるっと東西南北

顔

火山に囲まれたえびの市・えびの高原の観光施設など6施設と同市でつくる自主防災組織の会長を本年度から務める。「観光客と従業員の安全を守るため緊張感を持って防災力向上を進めたい」と先を見据える。

同組織は、新燃岳噴火など災害発生時の被害防止、軽減を図ろうと2015年に発足。関係機関と連携して避難誘導訓練などを重ねており、「いつ災害に見舞われても全ての従業員が対応できないといけない。訓練で大事なのは継続性」と考える。本年度は、人命救助や火山の知識を学ぶ講習会にも力を入れる計画だ。

自身は「ホテルピコラナイえびの高原」の総支配人。火山をはじめ雄大な自然の魅力を体感できるえびの高原を、「国内外から観光客を呼べる観光地」と誇る。「だからこそ、一人一人に安心して過ごしてもらいたい」

鹿児島県出身で、霧島市から通勤する。観光地や温泉巡りが楽しみの一つ。55歳。（菅野健太）

えびの高原自主防災組織会長

大石　勝幸（おおいし　かつゆき）さん

後日、「えびの高原自主防災組織会長」として新聞で紹介